あとがき

『水戸下市御用留』第一～七冊は、河内八郎教授とその受講学生が作成した解読文をもとに、木戸之都子助手が整理したものを原稿とし、校正段階で原文書との照合を行うという方法で作成してきた。私は第二冊から校正に協力してきたが、短時間の校正では、ままみられる解読文の不備を十分に是正できないことを痛感していた。また第一～七冊の刊行は、一九九一年三月より毎年一冊の刊行ペースを維持してきた。これは木戸助手の尽力と附属図書館の配慮の成果である。ただし、昨年度は附属図書館貴重図書室所蔵の郷土史料目録の刊行を併行して実現するため、『中崎家文書目録（1）』の刊行に力を注いだので、『水戸下市御用留』の刊行は、はじめて一年の休みをとることになった。

第八冊の刊行にあたって、第一～七冊が「町方御用留」として一貫した内容を持っているのに対し、第八冊で収録を予定していた御用留五冊は、「問屋御用留」という宿駅・伝馬関係の内容であったことと、前述の原稿作成・校正作業の問題点を考慮して、河内教授と受講学生が作成した解読文を参考にしつつ、原本から解読をやりなおし、しかもパソコン入力の方法をとることにした。また解読・入力作業は、私の大学院演習と併行して行い、その作業は別記の院生諸君と木戸助手に担当してもらった。この結果、本冊所収の御用留では、原本の各記事の冒頭の○印（朱書）を生かして、記事に一連番号を付けるなど、若干の改善を実現することができた。またパソコン入力は、印刷の効率化と、今後附属図書館で整備される電子公開情報の蓄積に役立つことになろう。院生諸君の尽力に対して感謝したい。

ところで、近世後期の水戸下市で、町年寄や町名主・問屋を勤めた佐藤家旧蔵の御用留として、附属図書館には「山方御用留」五冊が所蔵されている。これは第一～七冊所収の「町方御用留」や第八冊所収の「問屋御用留」とは性格が異なるが、同じ文書群として附属図書館に所蔵されているものであり、水戸の有力町人が町外の山方の管理を担当するという、水戸藩政の一面を示す史料でもあるので、『水戸下市御用留』第九冊にはこれを収載して、このシリーズを完結させたいと思っている。今後一層のご理解とご支援

を期待している。

第八冊の刊行にあたって、前冊までと比較して分量が多くなったが、関係者のご協力で「問屋御用留」を分割せずに刊行できたことをうれしく思う。このことを含めて、本書刊行にあたって、附属図書館の館長・職員の皆様のご理解を感謝するとともに、限られた期間に煩雑な製版・印刷を遂行されたコトブキ印刷株式会社の担当の皆様に感謝したい。またくりかえしになるが、原稿作成・校正作業を遂行してくれた木戸助手と院生諸君、なかでも解説の執筆も担当してくれた北島隆行君に感謝する次第である。

一九九九年二月

人文学部教授　長谷川　伸　三